

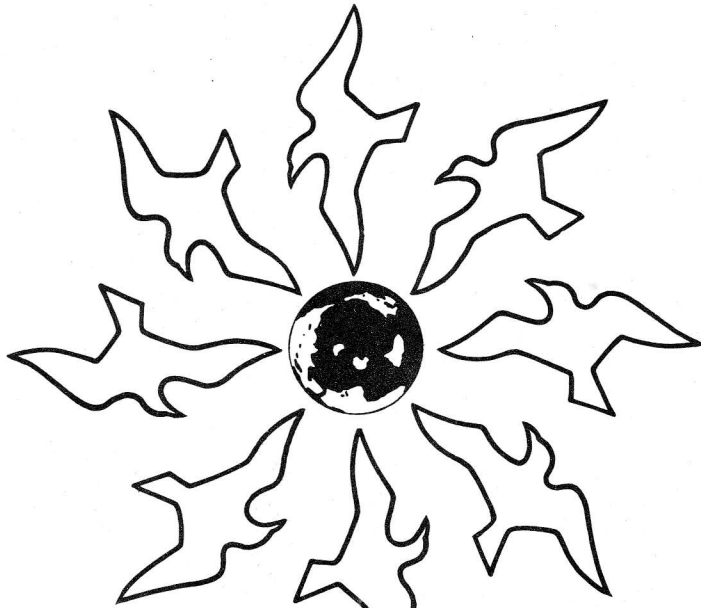


THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLY BULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

PUT LIFE INTO ROTARY-YOUR LIFE

ロータリーに
活力を--
あなたの
活力を



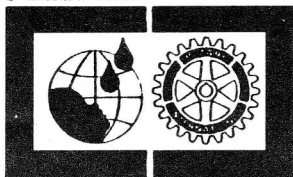
ガバナー公式訪問日
会員増強月間

1988・8・5・(金) 第40回例会

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 国歌斉唱 (奉仕の理想)
3. ロータリーソング (我等の生業)
4. 食 事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員長報告
8. セレモニー(誕生・結婚記念日祝)
9. ガバナーの時間
10. 点 鐘

PolioPlus



● 次回卓語予定者

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)
 例会場 ホテル神宮寺 TEL 0985-73-0015
 事務所 〒880-03 佐土原町大字上田島1883番地
 TEL 0985-74-1078

会 長	山 脇	忍
副 会 長	池 田	仁 志
幹 事	斉 藤	数 馬
会 計	佐 野	保 雄
会報委員長	垂 水	敏 雄

第39回例会記録(昭63・7・29)

会長挨拶 山脇 忍

皆さんこんにちは。 本日は第39回例会であります。

既にバスタガバナーとなりましたが、池田ガバナーの提唱された「恕の心」、「地域に根ざした奉仕」は、ロータリー活動を進めていくうえで非常に大事なことと考えますので、再度吟味し参考にしていただきたいと思えます。

お互いゆるし合うものがなければロータリーというものは成り立たないのではないのでしょうか。

「恕の心」さえ持っていれば、ロータリーは和に繋がって素晴らしいクラブができていくのではないかと考えます。

次に、常に「地域に根ざした奉仕」、そしてまた地域の人々の理解を得る奉仕が大切であります。

ロータリーだけでやればいいのだということではなく、地域の人達と互いに思いやりを分かち合う奉仕でなければなりません。

そして、ロータリーのことに地域の方々に理解をいただくことが、ロータリーを知ってもらう大きな途にもなります。

アメリカの神学者R・ニーバーという人が祈りの言葉のなかで、「変えることのできないもの」については、それを受け入れる冷静さを、「変えるべきもの」については、それを變える勇気を、そして、變えることのできないものと、變えるべきものとを區別する知恵を、というのがあるそうです。

“これはもう變えんといかん”と思うものは、勇気を持って變えてください。

“これはどうしても變えられない”と思うも

のに対しては、これを受け入れる治静さを持たなければならないと言っているのであります。

しかし、變えるものと、變えられないものとを區別するには、十分な知識がないとできないことで、そのような知恵を備えていなければならないというのであります。

以上のような言葉を参考に、佐土原RCの運営も行いたいものであります。

さて、人は森の中に入りますと、馥郁とした香りがただよい、すがすがしい気分とともに体に活力がみなぎってくるのを感じます。

また、ただぶらぶらと森の中を散歩しているだけでも食欲が増し、ご飯がおいしく食べられるようになります。

このように、森の中を歩き、森の香りを体に浴びて健康増進に役立てようというのが森林浴であります。

しかも、夏は森林浴の最適な季節だといわれています。

人間は美しいものを見ると心に安らぎを感じたり、気分が良くなりますが、森林浴もこのような気分的なものでしょうか。

それを知るために、森と都市での生理的な違いを調査したのがあります。

それによりますと、光に対する瞳孔の反射運動を森の中と都市の人工気候室で比較してみますと、香りの漂う森の中の方が、同じ光を見てもより大きく縮瞳することが明らかになりました。

また、梅干しを見つめているうちに分泌してくる唾液の量を、同じように比較しますと、梅

干しを見るだけで条件反射的に出てくる唾液の最も森の方が都市より多いことがわかりました。

従って、森林浴によって活力が湧いてきたり食欲が増進するというのは、単に気分の問題だけでなく、生理的効果によることが明らかになりました。

植物は、細菌やカビから自分を守るために防御物質を発散しています。

それが、香りの正体であるフィトンチッドといわれています。

人類は森から発生したといわれていますように、このフィトンチッドに適応し、森を「心身の健康をとり戻してくれる母のふところ」のように感じるものようであります。

そこで、森に入ったら胸一杯にフィトンチッドを吸い込むことです。

できれば大木の下ほど効果的のようです。吸い込んだ空気をできるだけ腹の下までいこうように送り込み、ゆっくりと足の裏に抜けていこうな気持ちで吐きます。

これは、「採気法」という中国の気功術の一つで、森林浴を有効にする呼吸法であります。

地球上の森林から年間1億7,500万トンのフィトンチッドの香りが出ているそうですが、その森林も、今では1秒間に9,000ヘクタールも消滅しています。

森林は気象を緩和したり、防音や保水効果、酸素補給など私たちに多くの利益をもたらしてくれます。

この森林を大切に保護していかなければなりません。

街の、公園の植樹を社会奉仕の今年度のプロジェクトとしております。

皆さんの協力をお願いする次第であります。



幹事報告 齊藤数馬

1. 例会の変更通知が次のようになっています。

●西都RC

8月2日 17:30 Hニューサイト

●高鍋RC

8月4日 17:30 H 泉屋

●小林RC

8月10日 19:00 平安閣

●都城北RC

8月2日 18:30 H都城グランド

●都城西RC

8月3日 18:30 レストラン和光

●都城中央RC

8月11日 18:30 都城大丸

●都城西RC

8月17日 17:30 レストラン和光

●都城RC

8月19日 18:30 中村デパート

2. 熊本県松橋RCから、創立20周年記念式典の案内が来ています。

○9月18日(日) 12:00開式

参加登録料 10,000円

夫人は 7,000円

会員卓話

副会長 池田仁志

本日は、佐土原の夏祭りに関連して、愛宕神社及び佐土原のおいたちについて私が少々調べたことをお話ししたいと思います。

愛宕神社は、養老2年(781年)の創建と伝えられ、丹波国の愛宕神社の分霊を移したものとされています。

祭神は、火之加具土神で、相殿には春日大神が祀ってあります。

慶長8年(1603年)に島津以久が佐土原藩に封ぜられると、祈願7社の一つとして崇め

社領十石を献上しました。

爾來歴代藩主の崇敬が深く、たびたび社殿を改築造営して、祭祀を盛大に行っていました。

初めは「愛宕大権現」と称せられ、明治維新後「愛宕神社」と改められました。

明治6年、県社に列せられ、現在も火の神として崇敬されています。

次に、佐土原のおいたちですが、佐土原の地名が文献に見えるのは、建久凶田帳（建久8年）に、八条院御領の莊園一國富莊の一部として、「佐土原十五町」とあるのが最初ようです。今から791年前のことになります。

建久元年（1190年）、源瀬朝から日向地頭に補せられた工藤祐経が、現在の田島・下田島を合わせた地域を統治し、祐経が曾我兄弟に討たれた後、その子祐時が遺領を引き継ぎ、工藤氏を伊東氏と改姓したのが、佐土原と伊東氏との結び付きになっています。

祐時の四男祐明は田島に下向し、古城（現在の田島と田中の境）に山城を設け、平城（現在の新城地区）に館を置いたといわれています。これを田島伊東氏と称しています。

応永34年（1427年）、伊東氏は支族の田島氏を滅ぼし、伊東祐賀が「佐土原氏」を称えて、田島氏を継ぎ佐土原城を居城としました。

それから140年間、近隣を平定した伊東氏は全盛期に入ったのですが、天正5年に島津の大軍に追われた伊東義祐一族は、米良越えて豊後に逃げたのであります。これが、「歴史を歩こう会」が毎年実施しています「伊東氏豊後落ちを偲ぶ」山道路破の催しであります。

伊東氏のあとに佐土原城に入った島津家久が病死後、子豊久が領主となりましたが、関ヶ原の戦いで西軍につき戦死し、一時は徳川氏の統治下に入りました。

その後、徳川家康は島津豊久の罪を許し、島津氏一族の島津以久が佐土原藩主となり、十代忠寛に至るまで268年間佐土原を領しました。

城下町当時の面影は次第に失われつつありますが、京都になぞらえてつけられたという、祇園とか○○小路という地名が、名残りを留めています。

◇ * ◇ * ◇

パナー益金の37,200円を、児玉C.N.式典記念事業委員長からハッピーボックスへいただきました。

出席報告

第39回例会 7月29日（金）

会 員 数	17名
ホーム欠席者数	5名
ホーム出席者数	12名
ホーム出席率	70.59%
メイクアップ者数	0名
欠席者名	岩切・神宮寺・上田 金丸・立山

ビジター紹介(敬称略)

宮崎西 西岡 恒之助